

第31期第17回常任理事会議事録

日 時：2002年1月22日（月）13時30分～17時00分

会 場：日本気象学会事務局（気象庁 8階）

出席者：廣田，二宮，勝山，木田，澤井，住，関口，
田中(博)，新野，藤部，萬納寺，山岸，山内，
以上13名

その他の出席者：館（事務局）

議事

1. 第31期第16回常任理事会議事録の確認

2. 各委員会報告

庶務…転載許可

(1) 気象集誌に掲載された論文の利用許可
気象集誌 vol. 65, p259-277に掲載された
下記論文を気象研究所刊行の「環境にお
ける人工放射能の研究1954-2001」への転
載

Hirose, K., M. Aoyama, Y. Katsuragi
and Y. Sugimura, Annual deposition of
Sr-90, Cs-137 and Pu-239, 240 from the
1961-1980 Nuclear Explosions: a Sim-
ple Model.

(2) 気象集誌に掲載された図の利用許可
気象集誌 vol. 77 p. 1303 Fig. 2及び
p. 1304 Fig. 3を(株)フジ・テクノシステ
ム出版企画本「地球環境調査事典陸域編」
への転載

・後援名義等使用依頼受付

名義：総合的水マネジメントの今後—水資源
学シンポジウム，第3回水フォーラム
合同開催—

1) 主催：日本学術会議水資源学専門委員
会，水文・水資源学会，国土交通
省水資源部

2) 期日：2002年3月18日（月）

3) 場所：日経ホール（東京大手町）

4) 名義：後援

・第19期学術研究団体の登録申請に当たって
学術会議に気象学会を学術研究団体として
登録する。

・出版社著作権協議会より著作権使用料
65000円受領 1月16日

・「平成13年度科研費補助金状況報告」日本学術
振興会へ提出 1月11日

・第51回理論応用力学講演会 共催分担金
(15,000円) 振込み 1月18日

・2002年1月1日現在種別会員数

	一般A	一般B	学A	学B	特個	特団
会員数	2733	881	240	62	53	144
前年	2722	911	249	52	54	136
増減	11	-30	-9	10	-1	8

団A	団B	賛助	名誉	書店	寄贈	計
129	166	44	14	55	28	4549
121	174	43	8	55	29	4554
8	-8	1	6	0	-1	-5

・事務局

鳥津さんの後任を決定した。引継ぎなどの詳
細は事務局に任せる。事務局員交替の際の
ルールを明文化することとする。

会計…2001年12月分の収支報告

天気…Vol. 49 No. 1（2002年1月号）の掲載記事と
Vol. 49 No. 2（2002年2月号）掲載予定記事
の報告。

・1月号からPDF形式での保存を開始するに
あたり、検索機能・フォントなどの最終的検
討を行った。

・レイアウトなどの仕様を検討し、2月に次年
度の入札を行う。

・「気象」から引き継ぐ記事について気象庁と打
ち合わせを行った。

・これらの報告に対し、天気の経費が妥当であ
るよう考慮して仕様書を作成するのが良い
との意見が出された。

気象集誌…Vol. 80 No. 2の内容を報告。

・海外からの投稿が増えている。

・1～2年前に投稿された論文を早く処理した
い。

・電子ジャーナル化を準備中

気象研究ノート…（「人工知能」を書店に置きたいと
の希望に関して、）現在契約している印刷業者
から書店に取り次ぐことが可能であることが
わかった。書店取り次ぎに必要な費用、書店
での値段、返品取り扱いなどを検討する。
これに対し、売り上げを増やして収入増をね
らうのか、赤字でも良いから購読者を増やす

事を目的とするのか、また、毎号行うのか、今回を試験的なものとするのか、などの検討が必要との意見が出された。

総合計画…総会対策開始

・気象技術講習会基礎課程（3～6月）を準備
教育と普及…来年度夏季大学を「21世紀の天気予報」をテーマとしたい。見学に代わって予報作成実習はできないか検討中。

国際…韓国で新しい学会理事長が決まった。今後の日韓の協力を進めたい。

電子情報…2001年12月1～31日の気象学会ホームページのアクセス状況（31,733件）

3. 会員の新規加入などについて

新入会員14名を承認、退会207名。1月15日現在、会員数4,469名（内、通常会員3,919名）。今月退会が多いのは、会費未納入者を退会扱いにしたため。

4. 2002年度事業計画（案）について

5. 公益法人会計基準の見直しに関する論点の整理（中間報告）について

総務庁が進める「公益法人会計基準」見直しに関する論点の整理（中間報告）についての意見照会が文部科学省からなされた。当学会はその趣旨に賛同する旨回答した。

6. 宇宙関連3機関統合後における地球観測の強化に関する要望書（案）

住理事が作成した要望書を関連する政府委員会などに理事長名で送付する。また、天気にも要望書を掲載する。

5月の総会で決議して学会名で要望してはどうか、という提案に対し、そのころは他の法人の統合化などの問題も出てくるので早く要望書を出す方がよいとされた。

今後、国立研究所などの見直し・統合化、国立大の独立行政法人化が計画されている。個々の組織からの視点、地球惑星関連の多くの学会からの視点、地球科学研究体制の新たな構築からの視点、などさまざまな視点があるとの意見があった。

7. 評議員の要望に対する気象学会の対応

評議員の要望に対して、関係する委員会の回答の原案が提示され、原案の概要と委員会での議論の経過が説明された。次の常任理事会までに改訂したのち、評議員に送付することとする。

気象学会事務局が気象庁に依存していることに關しても評議員に現状の説明をすることとなった。

8. 役員改選について

スケジュールを確認した。

堀内賞歴代受賞者リスト

—天気1月号推薦募集の参考資料—

2002年度堀内賞候補者の推薦募集は「天気」1月号に掲載されていますが、参考のためにこれまでの受賞者を以下に掲載します。堀内基金奨励賞（1988～1997年度）・堀内賞（1998年度以降）

受賞者は

'88年度：深尾昌一郎（京都大学）、
松井孝典・阿部 豊（東京大学）、
'89年度：花輪公雄（東北大学）、
内藤勲夫（国立天文台）、
'90年度：近藤 豊（名古屋大学）、
吉川久幸（気象研究所）、
'91年度：大村 纂（スイス連邦工科大学）、
'92年度：及川武久（筑波大学）、
山田道夫（京都大学）、
'93年度：岡本謙一（通信総合研究所）、

巻出義紘（東京大学）、
'94年度：津田敏隆（京都大学）、
'95年度：竹内謙介（北海道大学）、
'96年度：山中康裕（東京大学）、
田平 誠（愛知教育大学）、
'97年度：川村 宏（東北大学）、
神沢 博（国立環境研究所）、
'98年度：忠鉢 繁（気象研究所）、
'99年度：松枝秀和（気象研究所）、
原蘭芳信（農業環境技術研究所）、
'00年度：小池俊雄（東京大学）、
'01年度：久保田雅久（東海大学）、
小池 真（東京大学）

の24氏です。